

NECTA NEWS

発行日：平成29年10月15日

■編集 〒104-0032
一般社団法人 自然環境共生技術協会 東京都中央区八丁堀 3-23-5
広報委員会 八丁堀スクエアビル 4F
■発行 ■TEL: 03-6280-3722
一般社団法人 自然環境共生技術協会 ■FAX: 03-6280-3723
事務局 ■E-mail: necta@necta.jp
■URL: http://www.necta.jp

contents...

1. <巻頭言> 自然災害と自然環境
NECTA理事 日本工営㈱取締役執行役員 新屋 浩明氏
2. <総会報告等>
平成29年度第1回通常総会 等
3. <特別講演会報告> 『自然環境分野における気候変動への適応に関する最近の動向』
講師：環境省自然環境局生物多様性戦略推進室長 中澤 圭一氏
4. <第1回技術セミナー報告>
5. <NECTA最近の動き>
6. <協会活動報告> (平成29年7月1日～9月30日)
7. <新加入会員自己紹介> (樹地域環境計画)
8. <お知らせ>

一般社団法人 自然環境共生技術協会
Natural Environment Coexistence Technology Association

・ニューズレター第54号・

1. 巻頭言

自然災害と自然環境
一般社団法人自然環境共生技術協会理事
日本工営㈱ 取締役執行役員 新屋 浩明



近年、九州北部豪雨や関東・東北豪雨、広島土砂災害など、毎年のように水害や土砂災害が発生している。また、東北地方太平洋沖地震や熊本地震などの大規模地震や、御嶽山などの火山災害も頻発している。これらの自然災害は昔から繰り返されてきたが、最近では発生頻度が高く、被害規模も拡大傾向にあると言われている。地球温暖化に伴う気象変動の影響により、集中豪雨や大雨の頻度が増加したことも被害拡大の原因であるが、災害リスクの高い地域まで市街地が広がっていることや、災害に対する危機意識が薄れていることも、被害を大きくしている要因である。

日本は、急峻な山地や河川が多いうえに、地震や火山活動も活発である。また、四季の変化や梅雨があり、台風の襲来も多い。四方を海に囲まれ、狭い地域に人口が密集しているため、自然災害が発生しやすく、大きな被害にもなりやすい。しかし、このような自然災害の要因となる地形や気象条件は、日本の美しい自然景観をもたらし、災害となるような自然現象により、溶岩台地などの火山風景や温泉、堰き止め湖や河川の後背湿地など、様々な美しい景観が作りだされている。また、火山地域や崖地など不安定な場所に特有な植物や、洪水などの定期的な攪乱により維持される河畔林など、災害的な自然現象に依

存する生物も少なくなく、これらにより多様で貴重な生態系がつけられている。

我が国では、古くから自然の恵みを享受しながら、様々な災害を克服するためのインフラ技術が発展してきた。信玄堤のような治水技術が発達し、輪中や屋敷林、治山治水の考え方など、地域の特性や自然を活かしたインフラ整備が行われてきた。

現代では、インフラ技術は高度なものになっているが、自然災害は避けられず、想定外の規模の災害も発生している。災害の発生直後には、人命第一の防災工事や復旧工事が優先され、人々は被害の大きさや再発の危機感から、より安全性の高い対策を求める。このため、自然環境への配慮や長期的な視点に立った対策は後回しとなりがちである。東日本大震災においても、震災直後には巨大な防潮堤が計画されたが、時間の経過とともに人々の意識は変化し、防潮堤だけでは安全が確保できないことや、高台移転など将来の土地利用の変化、景観や生態系への影響などから、その是非が議論となった地域もある。

近年、自然環境が持つ機能を活用して防災・減災を図るグリーンインフラのような考えが注目されている。自然環境は、森林による斜面の土壌侵食や崩壊防止、遊水池や湿地による洪水調節、海岸林による津波の力の低減など、災害発生を抑制防止し低減する力を持つ。また、持続力や災害後の回復力もある。これらの力を活用し、湿地再生と築堤、森林整備と砂防堰堤、海岸防災林と防潮堤など、構造物との組み合わせにより、自然環境の保全と防災・減災を図る取り組みもみられる。

想定を超えた災害リスクや老朽化するインフラの維持管理を考えると、構造物による対策と併せて、長期的な観点から自然環境の力を活用し、防災・減災、地域づくりを考えていく必要がある。将来の安全・安心のために、自然と共生し、自然の力を活用してきた先人の知恵を借りながら、インフラ技術を発展させていくことは、これからの技術者の役割であろう。

2. 総会報告等

平成29年度第1回通常理事会

当協会の平成29年度第1回通常理事会が、平成29年8月30日（水）午後3時から東京都千代田区麹町の弘済会館で開催された。

この理事会は平成29年度第1回通常総会の開催及び通常総会に諮るべき議案等を審議するため開催されたものであり、理事総数16名のうち13名の出席の下、奥水会長の挨拶の後、会長が議長となり審議が執り行われた。

第1号議案は平成29年度第1回通常総会招集の件で、当該通常総会を平成29年9月13日（水）午後4時より東京都千代田区麹町の弘済会館において開催することとした。総会に諮る議題として、第2号議案平成28年度事業報告（案）の件、第3号議案平成28年度決算（案）の件について原案により総会に諮ることが決議された。また、第4号議案平成28年度公益目的支出計画実施報告では、原案について、総会における平成28年度決算の承認を得て内閣府に提出することとされた。

そのほか、報告事項1 会員入退会の件、報告事項2 平成29年度の活動状況について報告された。



【理事会の様子】

平成29年度第1回通常総会

当協会の平成29年度第1回通常総会が、理事会の承認通り、平成29年9月13日（水）午後4時から、正会員総数35名のうち、出席会員17名、委任状提出会員7名、合計24名の出席により、東京都千代田区麹町の弘済会館で開催された。

議事に先立ち奥水会長の開会の挨拶、引き続き、ご来賓の岡野隆宏環境省自然環境局自然環境計画課保全再生調整官からご挨拶を頂いた。

挨拶の後に引き続いて行われた議事では、第1号議案の平成28年度事業報告の件、第2号

議案の平成28年度決算の件が審議され、いずれも原案通り満場一致で可決された。



【総会の様子】

【奥水会長開会挨拶】



皆様こんにちは。本日は平成29年度第1回通常総会のご案内を差し上げましたところ、ご多忙にもかかわらず多数ご出席いただきましてどうもありがとうございます。

後ほどお諮りをいたしますけれども、平成28年度の

事業報告及び決算について、非常に大事なことばかりでございます。よろしくご意見・ご助言をいただきたいと思っております。この事業報告・決算報告は、報告ということになってはおりますけれども、実は次への展開をにらんでのことで、非常に大事なことでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私、この後の都合もあって、少々暑苦しい格好をしていますけれども、昨今気候、気象といったほうがよいのかもしれませんが、変化が想定外という言葉がありますけれどもどうも暑くてしょうがない。つい2、3日前までは少し涼しく、ちょうど季節の変わり目だからそういうことではないかなと思っております。私たちが対象とする自然に及ぶ範囲や、気象の変化についてあとからこういう風じゃないかと考えるとの気象予報士の話聞き、そういうものかなとなんとなく思いました。気象予報についてまったく予測ができていない、明日どういう風になるかもわからない。この中に気象予報士の方がおられればたいへん失礼なことを言っていると思うんですけども、私に言わせると明日のことはまだまだわからない

いことが多いのではないかと思います。それは冗談なのですけれど、昨今の気候変動、気象変動は本当に激しくて、大きく見ると、これはよく言われていることなのですけれど、台風の発生する位置の割合がだんだん北のほうにきている、非常にフレッシュな台風がすぐ日本列島近くで発生するといった予想できない動きがあって、気象予報士の方もなかなか大変なことではないかと思っております。半分を同情申し上げ、半分、研究材料がいっぱいあるのではないかと思っております。余計なことを申し上げましたけれども、後でもう少し大きな、気候変動という話で環境省の最近の取り組みについて、報告・ご紹介、ご講演いただくことになっており、たいへん楽しみにしている次第でございます。

この後総会に対して、皆様のご協力をお願いして挨拶いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【ご来賓 岡野保全再生調整官ご挨拶】



皆様こんにちは。今ご紹介いただきました自然環境計画課の岡野と申します。

本日は本総会にお招きいただきましてどうもありがとうございます。協会の皆様には日ごろから自然環境の保全行政の推進

につきましてご協力をいただいておりますことをこの場を借りまして御礼申し上げます。

環境省の最近の動きでございますけれども、8月の末に次年度の予算要望をさせていただいております。次年度につきましては国立公園満喫プロジェクトでありますとか、先の国会で改正されました希少種の野生生物の対策、それから今巷で話題になっておりますヒアリをはじめとした外来種対策、そういったものに力を入れていくということで予算要求・予算要望をさせていただいております。また、エネルギー特別会計の方につきましても環境と調和のとれた再生可能エネルギーの導入に向けた情報整備事業ということで自然環境調査を広くやっていくということで要望させていただいております。こういった予算要望の実現につきましても皆様のご協力を賜ればと思っております。また今ほど

会長からお話がありましたけれども気候変動の動きというのは今かなり実感されていることかと思っております。今年も北九州のほうで大きな災害が起きましたけれども本当にこれからどういう風に気候が変わっていくのか、こういった災害が起こるのかといったときに今一度自然というものを見つめなおし自然の力をうまく使っていく、或いは自然の力を使ってうまくいなしていくといった考え方も必要ではないかと思っております。環境省につきましては少し以前より生態系を活用した防災・減災でありますとかグリーンインフラという考え方は示しているところですがなかなか行政施策までもって行くことができていないというのが現状でございます。今後そういったところの施策の発展、それが社会に広まっていくためにも協会の皆様方との連携・協力が必要になってくるかと思っております。今日この後特別講演もありますけれどもそういったところを踏まえながら是非一緒に考えていきたいなと思っております。

今後こういった予算の要望状況についてでありますとか或いはいろいろな施策の研究内容について積極的に意見交換をしていきたいということで、今事務局の皆様ともご相談をさせていただいておりますので、今後ぜひ連携を深めていただけたらと思っております。本日はよろしく願いいたします。ありがとうございました。

編集・文責：(株)ニュージェック 黒瀬英治

3. 特別講演会報告

1. 開催日:平成 29 年 9 月 13日(水)
2. 場 所:弘済会館4階「菊の間」
3. 演 題:「自然環境分野における気候変動への適応に関する最近の動向」
4. 講 師:中澤 圭一氏
環境省自然環境局自然環境計画課
生物多様性戦略推進室長
5. 講演レポート

環境省生物多様性戦略推進室長の中澤圭一氏は、三年程前まで自然環境計画課の総括を務められました。今回は、・気候変動の影響について、・気候変動の影響への適応計画、・環境省における最近の取



組、・生物多様性分野における最近の取組、という大きく四つの編成に分けてご講演いただきました。

6. 講演の概要

6-1. 気候変動の影響について

地球温暖化問題に直面しているなか、世界初の温室効果ガス観測専用の衛星である“いぶき”が、二酸化炭素の平均濃度は上昇し続け400ppm近くに達していることを明らかにしている。

6-2. 気候変動の影響への適応計画について

2015年11月、気候変動影響評価等小委員会の議論をベースとした「気候変動の影響への適応計画」が閣議決定され、基本的考え方、分野別の施策、基盤的・国際的施策の三部構成で取りまとめられました。

・ 基本的考え方、基本戦略

- (1) 政府政策への適応の組込
- (2) 科学的知見の充実
- (3) 気候リスク情報等の共有と提供を通じた理解と協力の推進
- (4) 地域での適応の推進
- (5) 国際協力・貢献の推進

・ 分野別施策

- 農業、森林・林業、水産業
- 水環境・水資源
- 自然生態系
- 自然災害・沿岸域
- 健康
- 産業・経済活動
- 国民生活・都市生活

・ 基盤的・国際的施策

- 観測・監視、調査・研究
- 気候リスク情報等の共有と提供
- 地域での適応の推進
- 国際的施策

今回は分野別施策、自然生態系にフォーカスして説明された。

- (1) 気候変動に対して生態系は全体として変化する。これを人為的な対策によって広範囲に抑制することは不可能である。
- (2) モニタリングによって生態系と種の変化の把握をする。気候変動以外の要因によるストレスにも着目し、これらのストレスの低減や生態系ネットワークの構築により、気候変動に対する順応性の高い健全な生態系の保全と回復を図る。
- (3) 限定的な範囲で、生態系や種、生態系サービスを維持するために積極的な干渉を

行う可能性もある。ただし生態系への影響や管理の負担を考慮した相当慎重な検討が必要である。

(4) 気候変動における影響が及ぶとされる自然生態系は陸域生態系、淡水生態系、沿岸生態系、海洋生態系と様々なフィールドがあり、まずはモニタリングの強化と拡充が共通的な取組とされている。そのための人材確保と育成も必要。

(5) 気候変動以外のストレス、開発や環境汚染、過剰利用、外来種侵入等の低減に引き続き取り組み、生物が移動・分散する経路を確保するだけでなくその多面的な機能の発揮が期待される生態系ネットワークの形成を推進。

(6) 順応的な適応策を検討・実施する体制を構築。悪影響が著しい場合に限り限定的な範囲で積極的な干渉の実施について検討することとされている。

6-3. 環境省における最近の取組について： 地域での適応の推進

- ・「地域適応コンソーシアム事業」において地域の関係者が協働し、影響評価等を実施。
 - ・地域の取組を推進する情報やツールの提供等、科学的サポート体制の充実・強化。
- 以上を環境省、農林水産省、国土交通省の三省連携で進めている。

気候変動の影響への適応は、地域の生活基盤を守ることや地域振興にもつながることから、地域に合った取組が重要であり、地方公共団体における実施を促進する必要がある。

6-4. 生物多様性分野における最近の取組について

- (1) 気候変動が生物多様性に与える影響を低減するための自然生態系分野の適応策。
- (2) 他分野の適応策が行われることによる生物多様性への影響の回避。
- (3) 気候変動に適応する際の一部としての生態系の活用。

以上の視点を踏まえ三種類の適応策にまとめられる。

- ・モニタリングの拡充と評価
- ・気候変動に順応性の高い健全な生態系の保全・再生
- ・積極的な干渉

とくに”健全性の確保”は一番のポイントとなる。そのため気候変動以外のストレスの低減、気候変動の影響の小さい地域の特定と優先的な保全、生態系のネットワークの形成

等が実施されている。

課題の解決に向け、次のことが考えられる。

- ・保護区レベルでの気候変動の予測に基づいた適応策の実装。
- ・保護区の観光・利用による影響予測や脆弱性評価。
- ・実装プロセスや考え方の周知と全国展開。

こうした取組みに加え、国立公園の管理や地方自治体が行う生物多様性分野における気候変動への適応策への応用といった事例をもとに環境省も「試行錯誤」しながら取組みを進めていくということになる。



【講演会の様子】

レポーター：西武造園株式会社 山田 桃子

4. 第1回技術セミナー報告

1. 開催日：平成29年10月5日(木)
2. 開催場所：NECTA会議室
3. 技術テーマ：自然等の地域資源を活かした温泉地の活性化に向けて
4. 講師：山本 麻衣氏(環境省)
岩田 彰隆氏(アジア航測株)
酒井 学氏(株)ブレック研究所
5. 技術セミナー開催趣旨

今年度も自然環境共生技術に係る新たな動向、関連する施策や技術等の具体的内容と今後の展開について学び、その応用展開を考えるための実践セミナーを3回のシリーズで開催することとなりました。環境省の施策・業務における検討、調査等により、これまでに蓄積されてきた情報の共有を図るものです。

第1回技術セミナーでは、「自然等の地域資源を活かした温泉地の活性化に向けて」をテーマに、環境省においてこの春から検討が進められ、この度提言がまとまり公表された温泉地の活性化策について、担当された温泉地保護利用推進室長の山本氏より、話題提供を頂きました。

さらに国立公園内での温泉の活用や安全対

策に関わる業務を請け負ってきた会員会社2社から、温泉地の抱える諸課題について話題提供を頂きました。

6. セミナーの概要

・山本氏から『「新・湯治」の推進—温泉地の活性化に向けて—』と題して、「今何故温泉なのか？」を、温泉法の解説や温泉利用者、温泉利用公衆浴場施設の推移など、近年の動向を踏まえて説明頂きました。一昔前は、病気を治癒する湯治場として栄えたところも、団体旅行を迎える温泉地、療養・保養の場に移行し、利用の衰退が著しくなっていました。このためこれらの見過ごされてきた温泉資源や周辺地域の自然・文化資源を見直し、「新・湯治」と銘打って、国民保養温泉地を中核として、活性化を目指そうというものです。昨今では外国人観光客の利用も増えている中、国立公園満喫プロジェクトとも連携を



とって進めることにより、地域活性化に繋がれば、まさに地域創生の起爆剤となるのではない

かというお話でした。また、これらに対する予算措置の状況の説明もありました。

・岩田氏から「温泉地と火山ガス—安全な利用のために—」と題して、業務で取り組んで来られた火山ガスの危険性について、説明されました。火山ガス(特に硫化水素、亜硫酸ガス、二酸化炭素)が高濃度に滞留することによる事故が毎年のように起き、対策が求められているものの地形・気象条件等によって滞留が発生することから、その予測は不可能に近いとのことでした。よって、滞留しやすい場所に近づかないことが一番賢明ですが、壮大な自然資源の一部を成しており、特に歩道沿いは、観光客も通過するため、安全策として火山ガス観測情報発信施設の設置を提案し、現在稼働し、広く利用されているとのことでした。また、硫化水素濃度の観測状況やWEBによる情報発信など、各地での安心安全対策への取り組みの重要性を強く訴えられました。

・酒井氏からは「余剰温泉熱の地域での活用—現状と課題—」と題して、業務で取り組ん



・酒井氏からは「余剰温泉熱の地域での活用—現状と課題—」と題して、業務で取り組ん

で来られた温泉熱の有効利用について、説明されました。余剰温泉熱には、①湧出している未利用源泉、②高温の源泉を利用に適した温度に下げる湯冷まし排熱、③源泉掛け流しを謳った排湯などがある。一方、温泉熱の利用は、温泉卵など直接利用のほか、バイナリー発電、熱交換、ヒートポンプなどがあるが、温泉事業者個人が導入を考えても①すべての温泉源が利用できるわけではないこと、②例えばヒートポンプを導入したくても問い合わせ先情報を持ち合わせないこと、③改修への初期投資が大きいことなどから、先送りされてきました。しかし、近年再生可能エネルギーへの関心も高まっていることから温泉事業者個人の理解も深まり、個人で取り組むことは勿論、地域全体で取り組んだ方が、より効果的な課題も多く存在していることがわかったことから、国等の支援のあり方への言及がありました。



7. 所感

環境省や企業の取り組みが情報提供され、講演後の質問や相互の意見交換もたくさんありました。19名の出席を得て、参加の方々には、新たな気づきもあったかと思えます。盛会で、また有意義な時間とすることが出来ました。11月7日には、次回の技術セミナーが開かれます。皆さんお楽しみに。

(文責：研究委員会 大橋 敏行)

5. NECTA最近の動き

○総会

この9月には、平成28年度の事業報告および決算について、総会場で承認をいただきました。ご列席をいただきました会員各社の皆様には、篤く御礼申し上げます。

さて、NECTAでは、総会を会員相互や官公庁の方との意見交換の重要な場として位置づけ、年2回の総会を開催してきましたが、他団体では総会は年1回の例が多いこと、総会開催のために会員会社の皆様に多くのご負担を強いていることなどから、総会を年1回とする検討を今後行っていきます。

○事務局長の交代

事務局長の西塔さんにおかれましては、

2013年から4年間の長きにわたり、協会の事務を引き受けて頂いておりましたが、この度事務局長を退任されることとなりました。大変お世話になり、ありがとうございました。

残念ながら後任の事務局長は決まっておらず、渋谷専務理事が事務局長代行として職務にあたっていただくこととなりましたが、引き続き皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

(文責：企画運営委員長 黒崎 靖介)

6. 協会活動報告

(平成29年7月1日から9月30日)

【理事会】

- ・平成29年度第1回通常理事会
平成29年8月30日(水)
於：弘済会館 4F

【総会】

- ・平成29年度第1回通常総会
平成29年9月13日(水)
於：弘済会館 4F

【企画運営委員会】

第1回：平成29年7月4日(火)

- ① 各委員会等報告
- ② 平成28年度第2回理事会・総会報告
- ③ 造園CPDについて
- ④ 決算・期末残高について
- ⑤ その他

第2回：平成29年8月9日(水)

- ① 各委員会等報告
- ② 受託関係報告
- ③ 9月の通常理事会・総会について
- ④ その他

第3回：平成29年9月5日(火)

- ① 各委員会等報告
- ② 第1回通常理事会報告
- ③ 総会等について
- ④ 正会員、個人賛助会員の入会等について
- ⑤ その他

【事業委員会】

第1回：平成29年7月28日(金)

- ① 技術士講習会実施結果アンケートについて

- ② 野外セミナーの企画案について

第2回：平成29年9月11日(月)

- ① 野外セミナーについて

<特別講演会>

平成29年9月13日(水)

弘済会館4F菊の間

演題：自然環境分野における気候変動への適応に関する最近の動向

講師：環境省自然環境局自然環境計画課

生物多様性戦略推進室長 中澤圭一氏

【広報委員会】

NECTA ニュース第53号発行

平成29年7月15日

【研究委員会】

第1回：平成29年7月24日(木)

① 各研究会報告

第2回：平成29年8月30日(水)

① 各研究会報告

第3回：平成29年9月29日(金)

① 各研究会報告

【自然とのふれあい技術研究会】

平成29年8月22日(火)

① 本年度テーマ(ビジターセンター)について

平成29年9月28日(木)

① 本年度テーマ(ビジターセンター)について

【生物多様性技術研究会】

平成29年7月25日(水)

① 研究テーマについて

平成29年9月4日(月)

① 研究テーマについて

【自然再生技術研究会】

平成29年7月24日(月)

① 研究テーマについて

平成29年8月30日(水)

① 研究テーマについて

平成29年9月29日(金)

7. 新加入会員自己紹介

◆株式会社 地域環境計画

5年ほど前に諸般の事情により一旦退会しましたが、やはり自然環境、生物多様性の調査や保全を本分とする会社としてはNECTAの活動にしっかり係って行くべきとの思いから、この度再入会しました。技術研究会の活動にも参加させていただきますので、よろしくご指導の程、お願い申し上げます。最近の会社のトピックスを2つほどご紹介します。

■バースアイ・リサーチ研究会：<https://birdseyer.com/>

一昨年に自然環境分野でのUAVの活用を推進すべく、同業者数社と空撮会社で「バースアイ・リサーチ研究会」という任意団体を設立しました。この研究会では、テーマを設けた共同研究や操縦技術向上のための研修会などの活動をしており、来年は操縦技術を競う競技会の開催も計画しています。

■ネチャークリップス：<https://nature-clips.com/>

今年7月に自然系の講師、タレント派遣や企画などを行う「Nature Clips」というプロダクションを、タレント事務所の佐々木洋事務所との協働で立ち上げました。生物多様性保全には欠かせない「啓発や人づくり」に貢献できる事業を少しずつ進めていきたいと考えています。

最後に研究会に参加するメンバーからのコメントを紹介します。

[生物多様性技術研究会 根岸 理佳子]

このたび生物多様性技術研究会に参加させていただくことになりました根岸です。会社では地域戦略策定支援に関わる部署に所属しております。生物多様性の主流化、地域戦略の効果的な普及浸透、多様な主体による実現性ある施策展開など、戦略づくりにおける課題についても示唆が得られるのではと期待を高めております。皆さまとの研究活動を通じ、たくさんの意見に触れ、新しい考え方を提示できればと思います。よろしく願いいたします。

[自然ふれあい技術研究会 荒尾章子]

自然とのふれあい技術研究会に参加させていただくことになりました荒尾です。5年ほど前までも旧姓で参加させていただいており、また改めて皆さまと一緒できるのを大変嬉しく思っています。会社では、自然公園制度に関わる分野や地域戦略策定支援などの部署に所属しており、人相手の仕事をしております。ふれあい研究会で得られた経験や知識を今後の仕事にも生かしていきたいと思っておりますし、仕事で得られたことを研究会にフィードバックしていきたいと思っておりますので、改めてどうぞよろしくお願い申し上げます。

8. お知らせ

◆野外セミナー参加者の募集

既に会員の皆様にはご案内を差し上げたところですが、平成29年度野外セミナー(日光)の参加者を募集中です。今回のテーマは「日光国立公園満喫プロジェクト―世界水準のナショナルパークをめざした取り組み」で、環

境省をはじめとした関係行政機関・民間事業者が日光国立公園を舞台に取り組む「国立公園満喫プロジェクト」について、そのコンセプトである“NIKKOU IS NIPPON 自然・歴史・文化美しい「日本」を感じられる東京圏のプレミアムリゾート”を実現するための取り組みを「日光エリア」での水環境と調和した歴史遺産めぐりを主題とした見学・学習により、会員の見識を深めようとするものです。計画の概要は次の通りです。

日時：平成29年11月22日（水）

見学場所：日光国立公園日光地域
（日光湯元ビジターセンター、奥日光湯元、中禅寺湖畔 等）

参加者数：20名（先着申し込み順）

参加費：会員：3,000円、非会員：8,000円
（施設入場料、貸切バス、昼食代）

集合・解散：東武日光駅

造園CPD認定プログラム：4単位（申請中）

参加ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

E-mail:necta-1@necta.jp 又は

Tel：03-6280-3722

◆自然環境共生技術セミナーの開催

自然環境共生技術に係る新たな動向、関連する施策や技術等の具体的内容と今後の展開について学び、その応用展開を考えるための実践セミナーシリーズを会員限定として、次の内容で開催中です。いずれも会場はNECTA事務局会議室、時間は15時～17時です。第1回はすでに終了しましたが、2回目以降参加希望の会員は、NECTA事務局までE-mail neca-1@necta.jp で申し込みください

第2回 平成29年11月7日（〆切 10月31日）

・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存

第3回 平成29年12月4日（〆切 11月27日）

・自然環境情報の活用

◆公益目的支出計画実施報告書の受理

平成29年度第1回総会后、公益目的支出計画実施報告書を内閣府に提出し受理されました。これにより当初の計画通り平成28年度をもって公益目的財産の繰越残額がなくなったことから、今後、協会活動の自由度が高まることとなります。

◆NECTA関連環境省幹部人事異動（7月4日以降）

○7月4日付

・自然環境局総務課長 永島 徹也

○8月1日付

・自然環境局国立公園課長 田中 良典

・九州地方環境事務所長 岡本 光之

○8月16日付

・自然環境局自然環境計画課生物多様性主流化室長 長田 啓

○8月23日付

・自然環境局自然環境計画課生物多様性戦略推進室長 中澤 圭一

◆阿寒国立公園の名称変更

「阿寒国立公園」が、8月8日に「阿寒摩周国立公園」に名称変更されました。これは、摩周カルデラ北側外輪山山麓の神の子池や摩周カルデラ北側外輪山に至る集水域一帯を同国立公園区域に編入すること等に伴うもので、この結果、公園区域面積は932ha増えて、91,413haとなりました。

◆関係行政機関への新年挨拶参加者の募集

NECTAでは、例年1月～2月初旬にかけて関係省庁本省及び各地方環境事務所、自然環境事務所、国民公園管理事務所への新年挨拶を行っています。関係行政機関と直接お話ができる機会でもありますので、ふるってご参加ください。日程等に関するお問い合わせは事務局までお願いします。

◆会員の入退会（7月1日以降未掲載分）

正会員の入会

・株式会社丹青社（東京都港区）

・株式会社フジランドスケープ（東京都品川区）

・株式会社ラスコジャパン（兵庫県三木市）

個人賛助会員の入会

・有賀 光昭氏

・大島 誉史氏

正会員の退会

・株式会社愛植物設計事務所

◆お悔やみ

当協会の審議委員を務めていただいておりますが、一般財団法人みなと総合研究財団業務執行理事、小田勝也氏におかれましては、平成29年9月24日に逝去されました。生前の当協会へのご協力に感謝申し上げますとともに、心よりお悔やみ申し上げます。

◇